平成 28 年度

門覚寺跡·真珠道跡 発掘調査 現地説明会



日 時:平成28年9月24日[土]

午前の部 10:00 ~ / 午後の部 14:00 ~

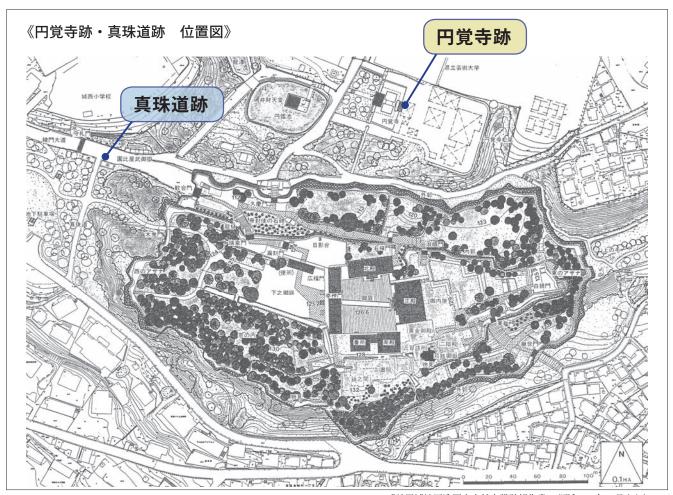
真珠道跡

主 催:沖縄県立埋蔵文化財センター

協 力:首里城公園管理センター、株式会社 島田組

目 次

- ◆円覚寺跡 発掘調査·······P 1
- ◆真珠道跡 発掘調査……P5
- ◆関連年表…… P 9



「首里城地区造園土木基本設計報告書」(昭和63年3月より)

平成28年度 之人かく 円覚寺跡 発掘調査

1. はじめに

沖縄県教育委員会では円覚寺跡の保全を図るとともに、 往事の姿を復元整備することを目的に 国の補助を受けて、保存整備事業を実施しています。

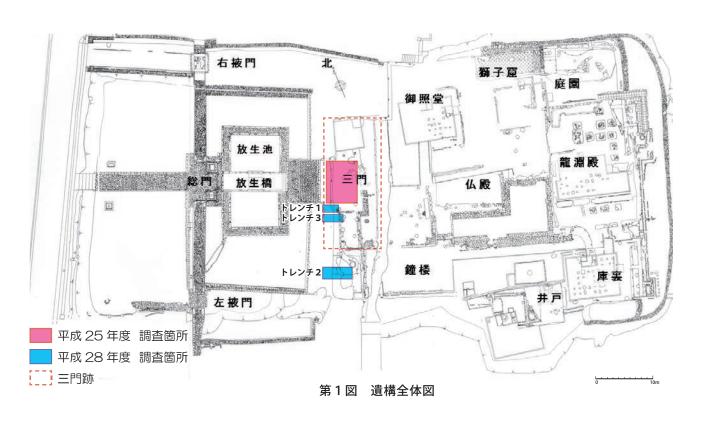
整備に先がけて、平成9年から平成13年までの5か年間、沖縄県教育委員会及び沖縄県立埋蔵文化財センターによって遺構確認調査が実施されました。その調査成果などに基づき、翌年から円覚寺跡の外周を取り囲む石牆の復元整備を進めてきました。

今年度は、かつて存在した三門の復元に向けた遺構確認を目的として、三門地区において発掘 調査を行いました。

2. 円覚寺跡とは

円覚寺は、1492年から約3年の歳月を経て選造された臨済宗の寺院です。尚真主(第二尚氏王統第三代)が父親である尚円王の御霊を祀るために建立したと伝えられています。第二尚氏の菩提寺であり、約450年間続きました。現在は国の史跡に指定されています。

境内には龍淵殿をはじめ、仏殿、御照堂、獅子窟、鐘楼、庫裏等の建物が建ち並んでいたことが文献資料や戦前に撮影された古写真等からうかがい知ることができます。これらの建物群は沖縄戦によって破壊されてしまいましたが、平成9年から13年に行われた発掘調査によって、建物の基礎遺構や石牆の一部が残っていることが確認されています。



3. 調査の成果

三門地区の遺構確認を目的に発掘調査を行った結果、以下のような遺構が見つかりました。これらの調査成果は、今後詳細な資料整理作業によりまとめられます。ここでは、現時点で判明している成果の概要を報告します。

石列

門廊の石列と同一方向に延び、また同じ高さで見つかったことより、三門の基壇の縁石と考えられます。 基壇側には塼を敷くための段もみられます。







両端には約70cm大の切石、両端以外は約20~30cm大の石を使用して、相方積みで構築しています。 勾配は持たず、ほぼ垂直に積まれています。 石積み2 は三門の基壇の石積みと考えられます。



石積み2

石積み1

1

そせき ねがた 礎石、根固め石

柱を立てる礎石を固定するために石灰岩礫を配置し、その上に礎石を置いたことが考えられます。





石積み1

根固め石

南北方向に延びる相方積みの石積みで、幅は約120cm あり、東西方向へ勾配をもちます。 石積み1は、地中に築かれた土留めの石積みと考えられます。





2

※その他の調査成果

< H28 トレンチ2>

約 1.3m 以上掘り下げたものの、ガラス片や鉄片などの現代遺物が混じる撹乱の土が続くことから、戦時中に大きく破壊を受けたことが考えられます。遺構は確認できませんでした。

< H28 トレンチ3>

多くの瓦片がまとまって見つかりました。三門は瓦葺きの建物であったことより、これらの瓦片は、瓦の葺き替えの際に廃棄されたものとも考えられます。



H28 トレンチ2



H28 トレンチ3 瓦溜まり検出状況

4. まとめ

三門地区の発掘調査の結果、三門の基壇や柱配置の手がかりとなる礎石及び根固め石が見つかりました。これらの遺構によって、三門の規模や向き、基壇の高さなど、三門復元に必要となる様々な成果を得ることができました。その他、円覚寺における土地の造成事業の一端についても明らかになりました。

これらの遺構の年代については、出土遺物が少ないため、詳細な検討が必要ですが、わずかに出土した陶磁器を参考にすると、15世紀後半~と円覚寺の創建当初の年代となる可能性が考えられます。今後、詳細な検討を行い、三門復元に向けての基礎資料としてまとめていきたいと思います。



1. はじめに

沖縄県立埋蔵文化財センターでは、平成 28(2016) 年に「真珠道跡」の発掘調査を実施しています。今回の調査では、戦前まであった真珠道跡とこれに隣接する国王頌徳碑の範囲・状況を確認することを目的としています。この調査成果は今後の首里城公園の整備のための基礎資料となります。

2. 調査の概要

遺跡 名:真珠道跡

所在地:那覇市真和志町1丁目7番1地先

調査目的:遺構の範囲確認調査

調查面積:約71㎡

調查期間:平成28年8月~9月

3. 真珠道について

真珠道は尚真王代 (1477 ~ 1527) に首里王府によって整備された道です。真珠道は石敷きで、はじめは首里から真玉橋 (現在の豊見城市)までの約4km が整備され、その後 1553 年には那覇港 (現在の住吉町)まで延長され、約8km の石畳が続いていたとされています。

真珠道が整備された理由は、当時各地で猛威を振るっていた倭寇への対策だったとされています。尚真王は那覇港に倭寇が来襲した際には兵を派遣し、南風原、豊見城の真玉橋を通り那覇港の南側(垣花)へ向かったとされています。

4. 国王頌徳碑について

国王頌徳碑は尚真王の功績が記された石碑で、真珠道の東側にあったことから石門之東之碑 文とも呼ばれていました。碑文には尚真王の功績として、それまで 100 年以上続いた国王が亡 くなった際に行われる殉死の風習を禁じるなど仁政を施したことが記されています。





c

調査区の東側に国王頌徳碑とこれを囲う石積みを想定していましたが、戦後の造成時に壊されており、これらに伴う遺構は確認できませんでした。(橙色部分)

この他溝状遺構も戦後の造成による影響を受けており、石積みの一部が外され、水道管が通されています。(○が外されたと考えられる石、破線部が外された箇所)





溝状遺構近景(北側より撮影)

調査区東側遠景(南側より撮影)

6.まとめ

今回の調査では当初想定していた国王頌徳碑に伴う遺構を確認することができませんでしたが、 真珠道に伴うと思われる石積み、南から東に向けて延びる溝状遺構を確認することができました。 これらの遺構の詳細については、今後遺物や堆積状況の整理し検討を行い、真珠道跡の復元の基 礎資料としていく予定です。



調査区遠景(南側より撮影)

琉球王国•首里城 関連年表 円覚寺跡関連

真珠道跡関連

ラルネエロ			133 3 NE TY
年号		T+ T+	事 項
西暦	日本	琉球	N/CD CD /
			尚巴志即位。この頃、美福門(1422~1439年)創建
1428年	正長1		建国門(中山門)を創建
1429年	永享1		中山王尚巴志、山南王を滅ぼし三山を統一
1451年			国相懐機、長虹堤を築く
1453年	享徳 2		王位継承争い「志魯・布里の乱」起こる。首里城焼失
1458年			護佐丸・阿麻和利の乱。「万国津梁の鐘」鋳造され首里城正殿にかける
1459年	3		王府失火で倉庫(京の内倉庫跡)などを焼く
1470年			金丸、王位に就き尚円と号し、第二尚氏王統始まる
1477年	9	同旦 目	尚宣威王位に就くが、尚真に位を譲る
1492年	明応1		円覚寺創建。仏殿、荒神堂、寝室、方丈、仏殿、法堂、山門、両廊、僧坊、厨庫、浴室が創 当初の建物。「広範囲に地ならしを行い、瓦を造って堂宇に葺いた」とされる(『球陽』、 『琉球国由来記』ほか)
1494年	3		円覚寺建立(1494年竣工)。約3年をかけて七堂伽藍完備の禅宗寺院として完成。宗廟を 堂(『球陽』、『中山世譜』ほか)
1495年	4		前鐘、中鐘鋳造
1496年	5		鐘楼築造、楼鐘鋳造(『球陽』)
1497年	6		円覚禅寺記碑碑文撰文(碑文より)
1498年	7		放生池、放生橋築造(『球陽』)
1501年	文亀 1	25	玉陵を築く
1502年	永正 2		円覚寺の前に圓鑑池を造り、弁財天堂を建し朝鮮王贈られた方冊蔵経を納める。琉球の使臣 福建に送って、船の補造する
1508年	5		首里城正殿に石造欄干造営、北殿創建、一対の大龍柱を設置
1519年	16		園比屋武御嶽石門・弁ヶ嶽の石門創建
1521年	大永 1	45	白 <mark>象彫像(木札より)</mark> 真珠湊碑文(仮名書きのミセセルが書かれる)建立し、軍事兼用の真珠道整備と真玉橋橋
1522年	天文 2	46	那覇港防禦を明記。石門(真珠道)の東側へ国王頌徳碑建立(宮古の仲宗根豊見親玄雅、宝治金丸などを献上し国王の徳讃え、殉死を禁じる)。1522年創建の真玉橋は木橋五座(中真玉橋、北側が世寄橋、南は世持橋、両端に無名の二座)。この頃(1527~1555年)、龍首里門(守礼門)を創建
1528年	享禄 1	尚清 2	待賢門(後の守礼門)建立
1554年	23	28	那覇港に屋良座森城が築城、碑文が建立される
1556年	弘治 2	尚元 1	尚元即位、倭寇来襲し尚元王、兵を率いてこれを破る
1571年	元亀 2	16	御照堂を加建(『球陽』)
1579年	天正7	尚永 7	首里門に「守礼之邦」の扁額を掲げる
1588年	16		方丈、大殿、山門を修復
	慶長1	尚寧 8	法堂(仏殿?)修復
1597年	2		浦添から首里に至る道路が開通し、大平橋(平良橋)が石橋に改築
1628年	寛永 5		首里城南殿創建
1660年	万治 3		首里城、火災で炎上し正殿その他が全焼する
1661年	寛文 1		慈恩寺橋が龍潭に移設されて世持橋となる
1670年	10		首里城正殿再建工事により瓦葺きに改める
1677年	延宝 5		東苑(御茶屋御殿)が創建、首里金城の石橋が完成する
1681年	天和 1		中山門が瓦葺に改修される
1694年	元禄 7		石火矢橋(豊見城城跡東側の饒波川に橋架)を木橋から石橋に改築
1697年	10		楼鐘毀損のため再鋳。山門に観音、十六羅漢像安置
1707年	宝永 4		真玉橋石橋に改修
1709年	6 正海 2		首里城正殿・北殿・南殿焼失 芦田城東建彩木牧化 1715年に京フォス
1712年			首里城再建が本格化し、1715年に完了する
1721年	享保 6		大殿(龍淵殿)焼失、同年再建(『球陽』)
1722年1728年	7 13		井戸の西側に行堂を創建 獅子穹 御昭党を小党に改築
1728年	13		<u>獅子窟、御照堂を小堂に改築</u> 首里城正殿重修され、「御差床」の位置を中央に移設
1729年			自主城正殿里修され、「御左床」の位直を中央に移設 鐘楼、亭寮、照堂寮の移築、修復(『球陽』)
	<u> </u>		理性、テ 京、 照呈景の移築、修復(『球場』) 首里城寝廟殿・世添御殿創建される
	<u>玉僧 3</u> 寛政 10		自主 収 後 削 成 ・
	文化 6		国主中吸岬殿に公子校別(国子)創設 真玉橋(北側の世寄橋)が大雨で決壊
10094	XIL 0	□/煎 0	共上侗(AU関ツビ可侗)ル'八附(<i>大</i> 牧

	年号		事項
西暦	日本	琉 球	
1836年	天保 7	尚育 2	真玉橋重修(北側の世寄橋のアーチを大きくし、その北側に世済橋を新たに新設。北から南へ、世済橋、世寄橋、真玉橋)
1837年	8	3	重修真玉橋碑文建立(1522年の木橋を石橋に改修した記念碑文、1708年と1837年の二次の の事が一つの碑文に記す)
1846年	弘化3		首里城正殿重修。首里城外郭の歓会門、久慶門、継世門を二重扉とする
		尚泰 32	尚泰王、首里城明け渡し(廃藩置県)、琉球王国が崩壊し、沖縄県誕生
1884年	17 27		一
1894年	41		清国貿易に関する船舶の那覇港への出入及び貨物積卸しを許可 首里城中山門、老朽のため52円余で売却撤去。沖縄県及び島嶼町村制を施行
1908年	42		百里城中山 、名作のため32円まで元却撤去。冲縄県及び島嶼町村間を施行 首里城、首里区に払い下げられる
1912年	大正 1		首里城内に第一小学校ができ、広福門、奉神門撤去
1923年	12		首里市会、首里城正殿の解体を決議する。首里城伊東忠太・鎌倉芳太郎来県、首里城の調査 究を行い文部省に保存を訴える
1925年	14		首里城正殿を国宝に指定
1927年	昭和 2		国庫補助により首里城正殿の解体修理工事着手
1931年	6		首里城正殿解体修理工事完成
1933年	8		首里城歓会門・瑞泉門・白銀門・守礼門ほか国宝指定
1933年	8		総門、右掖門、左掖門、放生橋、山門、仏殿、鐘楼、獅子窟、龍淵殿が旧国宝指定
1934年	9		首里城北殿の修理始まる(~1936年完成)
1937年	12		田辺泰・巌谷不二雄『琉球建築』を刊行。守礼門解体修理
1944年	19		首里城地下に第32軍司令部壕が構築される
1945年	20		首里城正殿を含む建造物群や石積み等、沖縄戦で焼失・崩壊
1945年 1948年	20 23		円覚寺沖縄戦で焼失・崩壊 円覚寺跡に琉球大学官舎建設
1951年	26		首里城跡に琉球大学開学
1955年	30		円覚寺跡が琉球政府指定史跡に
1956年	31		放生池石橋勾欄、木像白象及び趣意書木札が琉球政府特別重要文化財に指定
1957年	32		園比屋武御嶽石門を復元する
1958年	33		守礼門を復元する
1965年	40		円覚寺跡に琉球大学グラウンド建設
1967年	42		首里城跡を含む戦災文化財の復元整備計画立案
1968年	43		琉球政府文化財保護委員会により、総門、右・左掖門、放生池が復元される
1972年	47		沖縄本土復帰。首里城歓会門復元整備着手(~2001年度までに外郭石積み、木曳門、世継 どの各門が完成)
1972年	47		円覚寺跡が国指定史跡に、放生橋が国指定重要文化財に指定。総門が県指定有形文化財に指 定
1978年	53		前鐘、中鐘、楼鐘が国指定重要文化財指定
1982年	57		首里城跡より琉球大学移転
1984年	59		琉球大学が西原町に移転完了。沖縄県が「首里城公園基本計画」を策定し、県営公園として 備始動
1985年	60		首里城正殿跡の発掘調査に着手(~1986年度まで実施)
1986年	61		首里城内郭の約4haを「国営沖縄記念公園首里城地区」を沖縄復帰記念事業として復元整備 おこなうことが閣議で決定
1988年	63		北殿・南殿・御庭地区の発掘調査が開始
1989年	平成 1		首里城正殿及び南殿、番所、北殿、奉神門復元工事に着手
1992年	4		首里城正殿、北殿、南殿ほか復元整備完了し一般公開 芝思は京の内地区の登録部では、(1997年度) 1450年に北巡により原告
1994年	6		首里城京の内地区の発掘調査開始(~1997年度)、1459年に火災により焼失した倉庫跡 録掲載)が発見される
1997年	9		首里城下之御庭の首里森御嶽復元竣工
1997年	9		沖縄県立埋蔵文化財センターにより円覚寺跡発掘調査開始(1997〜2001、2006〜2010、 2013、2016)
1999年	11		首里城二階殿復元竣工
2000年	12		沖縄サミット開催。首里城京の内地区倉庫跡出土陶磁器が国の重要文化財に指定される。首 城跡、園比屋武御嶽石門を含む9資産がユネスコの世界遺産に登録される
2003年	15		首里城京の内復元竣工
2003年	15		円覚寺関係木彫資料35点が県指定有形文化財に指定
2004年	15		沖縄県立埋蔵文化財センターにより真珠道跡発掘調査開始(2004~2007、2016)